

南隅地域医療の最前線 コレマデとコレカラ

これまでの現状を知って、これからの地域医療や介護について一緒に考えてみませんか。



「肝属郡医師会立病院」の施設見学ツアーを開催 病院施設の現状をレポート

施設見学ツアーを開催

12月8日、肝属郡医師会立病院（以下「医師会立病院」）の施設見学ツアーが開催され、錦江町、南大隅町の住民28名が参加した。昨年の台風24号による土砂崩れ現場や、老朽化したボイラー室の配管状況を見学したあと、2班に分かれて施設内の状況を確認しながら説明を受けた。

見学後の意見交換会では、改修状況や施設の問題点など、さまざまな質問や意見が交わされた。今回は、病院の現状と、見学後に与えられた参加者の意見や感想を報告する。

7年間で約3億円の改修費

医師会立病院は建設から38年が経過。老朽化により、台風時は3階西側病室の窓全てから雨が侵入する。平成24年からの7年間でかった費用は約3億円にのぼる。ボイラーや給排水・空調設備の配管腐食、詰まりも見られ、入れ替えには多額の費用がかかる。

医療機器（システム）経費もこの7年で6億円を超えており、今年度は電子カルテシステムの更新も控え、2億円を超える更新費用も見込んでいる。

時代に合った療養環境を

医師会立病院が建設された昭和55年当時の基準では、1人当たりの病室面積が4.3㎡以上であった。第4次医療法改正により、現在の医療基準では6.4㎡以上が必要とされている。

入院患者の高齢化に伴い、車いすやポータブルトイレの利用も増え、病室面積の確保も課題となっている。今後は施設改修と併せて、療養環境の改善も図る必要がある。



老朽化した施設の説明を受ける参加者



主な施設改修費用の内訳

改修・補修・耐震	約4,800万円
外壁・屋根・内壁	約2,400万円
発電機	約6,100万円
ナースコール	約3,100万円
空調・換気	約3,600万円
ボイラー・配管	約6,200万円
トイレ・浴室・水道	約800万円